

外国語活動

外国語活動では、音声を取り扱う際、どのように指導すればよいか。

3-1-(6) 音声を取り扱う場合には、CD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用すること。その際、使用する視覚教材は、児童、学校及び地域の実態を考慮して適切なものとする。

★ 外国語の音声やリズムに慣れ親しませるためには、児童に十分外国語の音声に触れさせることが不可欠である。

① ALTなどのネイティブ・スピーカーや外国語が堪能な地域の人々などとのチーム・ティーチングを行う。

② CD、DVDなどの視聴覚教材の積極的な活用も極めて有効である。

視聴覚教材の活用の留意点

視聴覚教材を使う目的を明確にし、児童や学校及び地域の実態に応じたものを選択することが大切である。

※ 視聴覚教材活用の長所

- ・ 言葉が使われる文脈、場面において、言語を繰り返し提示することができる。
- ・ 映像を伴う教材においては、話者の表情やジェスチャーなどの視覚情報も提供できる。
- ・ インターネット等を活用することで、調べ学習や交流活動も行うことができる。

※ 配慮したいこと

- ・ 過度に文字を習得させることや、過度に簡単な定型対話文を暗記させ演じさせることなどを目的にしたものを活用することは、外国語活動の目標にそぐわない。